

# わおん 通信

2021  
春号  
vol.40

特集1 土とつながる暮らし  
特集2 おもしろ環境まつり2020オンライン開催



## CONTENTS

P2 - P3

### 土とつながる暮らし

お母さんたち頑張っています!! 「県産小麦を求めて」  
これぞ「食育」 県内に広がる様々な動き  
棚田で秋の一日を満喫  
「棚田フェスタ収穫祭」 10月25日(日)

P4 - P5

### おもしろ環境まつり2020 オンライン開催

P6 県情報

P7 推進員さん訪問記<sup>34</sup>  
なるほど ザ・ワード

P8 INFORMATION

## これぞ「食育」 県内に広がる様々な動き

本特集で紹介された「給食スマイルプロジェクト」の取り組みでは、小麦の種まきや麦踏み体験を通して、大人も子供も、パンと農業の関わり、自然環境との関わりを学ぶ良い機会になっています。県内では、以前から学校給食に地場産物が使われてきたため、こうした機会に恵まれることもあったかと思いますが、それでも、多くの児童・生徒や保護者、もしかすると教員も、給食のパンの原料が、「どこでどんなふうに作られたものか」を知る人は少ないのではないのでしょうか。

「子供たちに安全な国産小麦のパンを食べてもらいたい」という「給食スマイルプロジェクト」の思いにも通じる「オーガニック学校給食運動」は、国内外を問わず活発化しており、その成果事例はメディアで取り上げられることも多くなりました。ここ数年だけ見ても、フランスやアメリカ、インド、韓国などの諸外国、また国内でも目に見えて増えています。というところで、今年に入ってからの県内の成果事例を2つ紹介します。

左下で紹介したような目に見える成果を目指し、紀の川市や田辺市などの各地域でも子育て中のお母さんたちや農家の皆さんが奮闘しています。学校給食に関わる仕組みは、各自治体によって違うため、まずそこを調べることから始まります。同時に「食」について学び、またSNSなどを活用して情報共有し、「子供たちの健康を守る」、「地域の持続可能な食と農業の実現」することを目指して粘り強く頑張っています。

学校では「食育」が進められています。「食育」とは、「食事のマナーや食物の栄養、地場産物の歴史や伝統的な食文化への理解、また食の安全について学ぶこと」などとされています。食育の中でも、とりわけ食の安全を学び、身体に良い食を選ぶことは、自分たちの食べ物の由来（誰が、どこで、どのような環境で作っているのか。）を知ることにつながり、結果として安全な農作物等を育む自然環境にも目を向けることとなります。そう考えると、現代社会において、食育の対象は子供に限らないことに気がきます。食の安全を考えること、それは、地域の未来を考えていく上でとても大事なことだということです。この機会に私たちの日々の食事を今一度見つめてみてはいかがでしょうか。

(和歌山有機認証協会 なかむらいづみ)

### 1月.....橋本市

市内全小学校の給食メニューの食材に、地元農家が自然農で栽培した「のらぼう菜」という野菜が使われました。のらぼう菜は、冬でも元気に育つカルシウムや鉄分の豊富なアブラナ科・在来種系の野菜で、その種子は、農家が自家採種で15年間も引き継いできたものです。



のらぼう菜

### 2月.....和歌山市

市内幼稚園の給食に、地元農家が自然栽培で育てた「古代小麦（スペルト小麦）」と、塩、水、酵母のみで焼き上げられたパンが出されました。古代小麦は、小麦アレルギーの発症率が1割程度といわれる大変希少な品種です。



給食で提供された古代小麦パン

## 棚田で秋の一日を満喫「棚田フェスタ収穫祭」 10月25日(日)

橋本市柱本の芋谷にある棚田で、稲刈りをして収穫を祝う「棚田フェスタ収穫祭」を開催しました。芋谷の棚田は、平成26年に「わかやまの美しい棚田・段々畑」に認定されています。今回のイベントは、芋谷の棚田の保全に取り組んでいる「柱本田園自然環境保全会」と子供たちへの環境教育を行っている「はしもと里山学校」との共同開催です。

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人数制限や検温などの対策を行った上での開催となりました。当日は晴天に恵まれ、子供と大人合わせて約60人が参加し、稲刈り体験や木工クラフトづくり、絵手紙づくり、里地の生き物観察が催されました。さらに、高野町在住のフランス人音楽家のロビン・デュブイさんによるチェロ

演奏会や里山ウォーキング、地元の野菜や特産品の販売が行われるなど、盛りだくさんの内容で、大人から子供まで1日を通して自然を大いに満喫することができました。

はしもと里山学校は、子供たちと一緒に棚田で米を栽培したり、生物多様性の保全のための生き物調査や観察会を開催したりしています。また、農村地域に受け継がれている文化や伝統の学習会なども実施しています。今後も生物多様性の保全のため、環境教育を継続し、子供たちが自然ととも

に健やかに成長できるよう支えていきたいと考えています。

(推進員 黒井成男)



子供広場「クラフト体験」の様子

# 特集① 土とつながる暮らし

私たちの命を支える「食」は関心の高いトピックスです。「食」が安全・安心であってほしいと願うことは、ごくごく自然な考え方で、誰もが望むことだと思います。「食の元」である農作物は、きれいな空気、水、土、そして太陽の光などがあって初めてできます。つまり、食を守ることは環境を守ることに繋がります。

今回は「食」にまつわるお母さんたちの取り組みや「食育」、そして子供たちと一緒に棚田で米の栽培などを手掛けている「はしもと里山学校」の取り組みについて特集します。

## お母さんたち頑張っています!! 「県産小麦を求めて」



麦踏みをする親子

2021年2月中旬の週末、海南市のある田んぼで子供たちが楽しそうに“麦踏み”（※）をしていました。ここでは、耕作放棄地を借り、地元の有志が給食用の小麦を育てています。この取り組みの名称は、「給食スマイルプロジェクト～県産小麦そだて隊!」です。県の「農業農村活性化支援モデル事業」を活用して行われています。今回は、このプロジェクトに携わっている多田寿江さん、満留(みつどめ)澄子さん、木村友美さんにお話をききました。

お母さん方がこの事業を始めたきっかけは、子供たちが学校で楽しく食べる給食は安全であってほしいとの思いからでした。和歌山市で農業を営む貴志正幸さんに出会い、その思いを伝えてくださることにになりました。

しかし、お母さん方は農業の初心者ばかり。2020年2月に今の田んぼを紹介していただき、7月に草刈りを行ったときは、農業がこれほど大変なことだとは思わなかったそうです。取り組みを進める中、近所の方が声を掛けてくれたり、安全な給食のために小麦を作ろうとしているとの話を聞いた方が、

て40人ほどの親子連れが畑で楽しそうに麦踏みを行っていました。

困っていることは何かときいたところ、「農機具を使えばいいが、お米用の機械に小麦が混ざると困るので、なかなかお借りするのも難しい。今は全て手作業なので大変です。」「力仕事が多いので、人手がもっとほしい。一人でも多くの方に手伝っていただけたらうれしい。」と答えてくれました。現在は貴志さんがコンバインを和歌山市から運び、刈り取りに協力してくださる方向で話が進んでいます。

県産小麦を使ったパンは、昨年11月に和歌山市の貴志南小学校で提供されました。貴志さんが和歌山市で育てた小麦を使って焼いたパンです。この日の作業に参加していた岩橋さんに、食べたパンの感想をきくと、「おいしかった。種まきや麦踏みをやって自分が育て

た小麦がパンになるのが楽しみです。」と話してくれました。

今後の展望をお母さん方にきくと、「目標達成までには、まだまだ多くの課題がある。課題の一つが製粉の問題。小麦を育てても、今は岡山県での製粉を余儀なくされている。和歌山県内に製粉所があれば、今の1kg当たり外国産の約10倍もある価格も下がり、輸送の過程で排出されるCO<sub>2</sub>も減らすことができる。」とのこと。

暖地でも育つよう改良された「ニシノカオリ」と「せときらら」という品種を植え、試行錯誤中の小麦作りですが、地域とのつながりをもち、さらに子供たちが農業への関心を高めてくれることで、地産地消の新たなモデルとなり、持続可能な地域づくりにつながっていく可能性を感じました。

「子供も一緒に楽しく農作業を手伝ってくれて生き生きした表情を見せてくれる。別の学校の新しい友達もできたと子供も喜んでます。」「苦労は多いが、みんなを笑顔にできる、みんなの小麦畑にしたい。」温かく思いやりにあふれるお母さん方の言葉に心がほっこりしました。



小麦作りについて語る多田さん、岩橋さん、満留さん、木村さん

(※) 麦踏み 麦の伸び過ぎを押さえ、根張りをよくするため、早春、麦の芽を足で踏むこと。表紙イラストは、麦踏みの様子を描いたものです。

興味がわいた方、一度活動してみようと思う方は、以下のアドレスまで連絡をお願いします。  
給食スマイルプロジェクト事務局 [kyusyoku.smileproject@gmail.com](mailto:kyusyoku.smileproject@gmail.com)



インスタグラム

特集 2

# おもしろ環境まつり2020オンライン開催

おもしろ環境まつり2020は、新型コロナウイルス感染症の影響により「オンライン開催」という新たな形での開催となりました。現在もWebサイトを公開しており、2021年3月31日までコンテンツを見ることができます。



介しました。パネリストからは「活動の輪を広げていくには、一人一人の意見をじっくり聞き、結果を急がないことが大切。」「自分で一歩を踏み出すのは勇気が要ること。問題意識を持っている市民の方は多いので、協力してもらえませんか」と、こちらから声を掛けると助けてくれる方はたくさんいる。「話をすることは、その活動が何につながっていくかを想像してもらえらるよう話をしている。」といった意見が出されました。

第2部では小学校の先生と環境学習アドバイザーを招き、環境教育の取り組みをテーマに

中止が危ぶまれたおもしろ環境まつり2020でしたが、実行委員会と出展団体の協力により、開催にこぎ着けました。環境問題や環境への取り組みを伝える新たな手段となったオンラインでの開催は、継続的な啓発の場となり、大きな可能性を秘めています。

今後、多くの来場者を迎える通常の形で開催が可能になった場合でも、同時にオンラインで開催することで、新たなコンテンツの創出と多くのアクセスが期待でき、より多くの人の環境問題への理解が進むと考えているからです。

いずれにしても、新型コロナウイルス感染症が早期に終息し、普通の生活に戻ってくることを皆さんと共に祈りたいと思います。

## 桂枝曾丸さんの防災クイズ (抜粋)

- スーパーで買い物をしている時に地震が起こったら丈夫な近くの棚にしがみついて身体を支える。
- 駅のホームにいる際に地震の揺れを感じたら、駅構内は危険なので、階段や出口に逃げるのではなく、停車中の電車に逃げ込む。
- 海に近い川沿いで地震が起こったら急いで川の上流に向かって走って逃げる。
- 家から避難所に行く時、離れ離れになった家族と連絡を取るため、分かりやすく家の扉にメモを貼っておく。
- (大雨の後などで) 水に浸かった道路を歩く時は、運動靴でなく、長靴を履く。

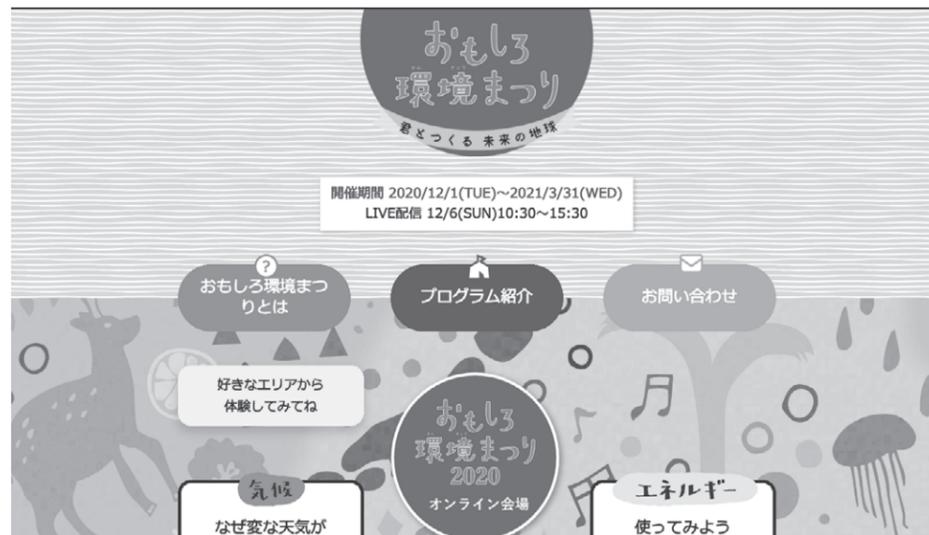


答えは「おもしろ環境まつり」のWebサイトで確認してください。答えだけでなく、具体的な説明も視聴できます。

おもしろ環境まつりWebサイトは3月31日まで開催中

おもしろ環境まつり で検索するか、右の二次元コードを読み取ってアクセスしてください。

<https://omokan.net/>



## オンライン開催 までの道のり

2020年7月9日に開催した「おもしろ環境まつり2020」の第1回実行委員会では、従来のようにイベント会場に人が集まる形での開催方法が難し

い状況であることから、中止も視野に入れ、慎重に議論しました。「おもしろ環境まつり」の立ち上げから関わってきた委員から「今まで開催してきた流れをここで途切れさせてはいけない。」という熱い思いのこもった発言があり、どんな形であっても開催しようという結論に至りました。来場者を制限して開催することも困難であるとの考えから、最終的にはオンラインのみで開催する方向で計画を進めました。

しかしながら、今までの「おもしろ環境まつり」は体験型の出展がほとんどであり、戸惑いが大きかったのも事実でした。その後、オンライン開催では何が必要になるのか、また、出展しようと考えているテーマでの動画配信がそもそも可能なのか、といった検討を続けました。

## 新たなチャレンジ

オンライン開催だと「おもしろ環境まつり」の最も重要なコンテンツである「触れて」「感じて」「体験する」という点で課題がありますが、逆にオンラインでの開催によって、今までまつり会場に来ていただけなかった遠方にお住まいの方にも参加いただくことができます。また、

人々の移動がなくなることでエネルギー消費を減らし、CO<sub>2</sub>の排出を抑えられる上に会場の設営や撤去に係る廃棄物の発生が抑制されるという効果が生まれ、今まで目指してきた「環境負荷ゼロを目指したイベント」が思わぬ形で達成されるというメリットを見いだすこともできました。

出展者の多くは自らの取り組みをネット上に掲載した経験がありませんでしたが、それぞれがお互いに出展イメージを共有しながら、コンテンツの内容を工夫していきましました。

## 多彩なコンテンツ

現在、57のコンテンツをWebサイトで掲載しています。Webサイトは、今回も5つのテーマ「気候変動防止と防災/エネルギー/廃棄物ゼロを目指した3R社会/食と水/生物多様性保全」で構成されています。海岸清掃の動画や光るスライムを作る工作動画、和歌山の豊かな自然を感じるパノラマ映像、話題となっている水素自動車の水素充填動画、海ごみについて学べる紙芝居など、個人、小学生、企業、自治体、NPOが創意工夫を凝らしたコンテンツを楽しんでいただけます。

## 12月6日ライブ配信



## 環境監視員にききました！

今回は、ごみの散乱を防止するため、日々活動をしている環境監視員にインタビューをしました。インタビューに応じてくれたのは、新宮保健所の清水道彦さんです。

### ●条例（※）の施行前と後で何か変化はありますか。

環境監視員の帽子を被り、腕章をつけるなど目立つ格好で街角に立っていますので、皆さんによく声を掛けていただきます。そのたびに、チラシを配りながら条例について説明をしています。ごみのポイ捨てや不法に投棄した者を現認した場合に回収を指示し、それに従わない場合5万円以下の過料になるという話をすると皆さんびっくりされます。そういった活動の結果からか、携帯灰皿をお持ちになるなど、喫煙者のタバコのポイ捨ては減ったように思います。

### ●日々の活動で大変なことはどんなことですか。

監視パトロールと並行して啓発活動を実施しています。その中で気付いたのは、タバコを道端等に捨てることを不法投棄（犯罪行為）と考えていない人が大半であるということです。タバコのポイ捨ても立派な不法投棄です。そうした理解を県民の皆さんに浸透させていくことは大変ですが、不法投棄に対して「絶対に駄目だ」という意識をもっていただき、条例の趣旨が浸透し、和歌山県がきれいになれば大変うれしいです。

また、市町村職員と道端等に散乱したごみを回収することもあります。ごみが捨てられた現状を見るととても悲しくなります。監視カメラの映像の確認も大変です。何千枚もある写真の中からごみを捨てた者を特定しなければなりません。実際、法律や条例に基づき対応した例もあります。犯罪行為を映した映像を見ると、いつも心が痛みます。不法投棄は絶対にしないでほしいです。

### ●ほかにはどのようなことをしていますか。

県民の皆さんと海岸清掃を行っています。砂浜など危険の少ない場所の場合は、小学生にも参加してもらっています。子供たちに海ごみの状況を知ってもらい、地球環境について考えてもらっています。子供の頃から「ごみを散乱させない」という意識をもつことがとても大切です。清掃活動を行う子供たちの姿を見て、心を改めてくれる人や美化活動に参加してくれる人が増えることに大きな期待を寄せています。

### ●これからどんなことを行っていきたいですか。

小学校や中学校などで、子供たちへのごみや美化活動に関する教育や啓発の機会を増やしたいと考えています。自分たちの住むまちの環境や、今ある自然を大切にしていってほしい。そのために、ごみの発生を減らし、散乱を防止し、正しく処理することの大切さを学んでほしいと思っています。

（※）条例 令和2年3月24日に施行された和歌山県ごみの散乱防止に関する条例のこと。



道路待避所で啓発をする清水監視員

# 推進員<sup>ひよっこ</sup>さん〇〇訪問記<sup>34</sup>

## 目指すのは「当たり前化計画」

和歌山市 加藤理菜 さん



2021年2月に開催された磯ノ浦海岸でのクリーンアップの会場で、加藤さんにお話をききました。加藤さんは以前から環境問題に関心があり、ペットボトル商品の購入を控えるなど、個人で努力を続けていました。その加藤さんが、推進員になったきっかけは、2019年に出会った谷口たかひささんのYouTube動画でした。「気候危機」という言葉、そして「早く何とかしないと、やがては地球上で食料の奪い合いが起こり、各地で争いが起こるかもしれない」という呼び掛けでした。

加藤さんは今、主にごみ問題に取り組んでいます。日々の生活で出されるごみや近年問題となっている海ごみを何とか減らそうと努力しています。燃やすことで排出されるCO<sub>2</sub>を減らしたい、海の生き物の命を守ると同時に、和歌山が誇れるきれいな海を蘇らせたいと考えているからです。

16期推進員として1年の活動を経て、変化を感じていると加藤さんは言います。「まずは、家族の行動が変わってきました。そして、浜辺のクリーンアップに参加してくれた仲間が、これは大変だと気づき、口コミで広げてくれ、さらに仲間が増えました。今では月に1回、ビーチクリーンを行うことが当たり前になってきています。私が目指しているのは「当たり前化計画」です。マイバッグやマイボトル、マイ箸を持つこと、コンポストを使って生ごみを出さないようにすること。当たり前になれば、不自由を感じることはありません。「当たり前化」といっても楽しくないと続けてもらえないと考えているので、仲間には楽しんでもらいながら一

緒に活動してもらおうよう心掛けています。友ヶ島へ行くこと計画しているのも、その一環。友ヶ島に行ってみたいという気持ちに働きかけます。友ヶ島に行ったら海岸に打ち上げられているごみの現状を知ってもらい、これはまずいと気付いてもらう。私は人と人をつなぐことが得意ですが、それ以外のことはうまくできないことが多いので、集まってくれているいろいろな能力を持った仲間にも助けてもらっています。これからは、行政の方もさらにつながりを強めて、私たち市民ではできないような活動をしたいと考えています。友ヶ島には沖ノ島と地ノ島がありますが、地ノ島には船が出ていないから私たちは行けない。でも、そこには同じように多くのごみが漂着しているはずなんです。そのまま放置していいはずはない。くるくる市<sup>(※)</sup>なんかも行政の方と一緒にできればいいのにと考えています。」

最後に一言と求めると、「今までは誰かがやってくれようと考えていました。でも、この現状の原因を作ってきたのは私たち大人。変えるためには自分が行動しないとイケないと思うんです。」とのこと。

1年間の活動を地道に続けてきた加藤さんの言葉には力がありました。今日もすてきな大人に出会えました。

(※) くるくる市 もう使わないけれど、まだ使えて捨てるのはもったいないものを持って帰ることのできる市。市によりルールは違うが、フリーマーケットと違い、値段交渉などはない。100円ほどの参加費を払って会場に入れば、自由に持ち帰ることができる市や、どの品も100円としている市などがある。

## なるほど サ・ワード

### 「グリーンスター」

1990年代のバブル期の頃から始まった美食ブームの中、飲食店を星の数で格付けするガイドブックが日本語でも販売されると、美食家に限らずガイドブックに載っているお店で食事を楽しむ人が増えていきました。よく知られているのが、「ミシュラン・ガイド」です。ところが、2020年発表のミシュラン・ガイドに新たな動きがありました。「グリーンスター」という指標が登場したのです。以前からあった料理や店のサービスの評価のほかに、例えば食品ロスの削減や森林活性化への寄与、環境に配慮する生産者の支援、絶滅危惧種の保護など持続可能な取り組みも評価し、自然環境に対して献身的で革新的な店を「グリーンスター」として紹介するようになったのです。

グリーンスターとして評価された、農地に囲まれた田舎のイタリアレストランでは、食材の地産地消を徹底し、輸送によるCO<sub>2</sub>排出を削減。飲み物用のストローやテイクアウト用のビニール包装、紙おしぼりの提供をやめ、界面活性剤入りの洗剤・漂白剤を使用しない、廃油をリサイクルするなど様々な環境対策を行っています。地元からジビエ(狩

### STOP温暖化・焦点の言葉 35

\*地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

猟等で捕獲された野生鳥獣の肉) や不ぞろいな野菜を積極的に購入し、大根の葉やレタスの外葉などは形が分からなくなるスープ、ソース、ドレッシング、ジャムに利用するなど工夫しています。さらに、野菜の皮やヘタは単に捨てるのではなく、だしを取るのに使い、生産過程やフード・マイレージ<sup>(※)</sup>で環境負荷が大きいとされる外国産チーズなどの乳製品を豆腐や酒かすに置き換えるなどし、地元の食材主体で料理を提供しています。すくい取り組みですね。このレストランのグリーンスターは当然の評価に思えます。ところが、シェフは「捨てられてしまう規格外の野菜を何とかしたい。その思いから始め、徐々にできることを増やしていっただけですよ。」と謙虚に話していました。

これは、時代が環境持続性というものを、豊かさを表す指標として評価する時期に入った、つまり、環境に配慮する姿勢が、高い価値を持ち始めたということです。紹介したレストランでの取り組みのいくつかは、今すぐ家庭でも実践できそうです。皆さんの家庭や職場でも、この新しい価値を取り入れ、できることを徐々に増やしていきながら、グリーンスターな家庭や職場を目指していきましょう。

(※) フード・マイレージ 食糧の輸送距離と輸送量を掛け合わせた数値。食糧の輸送が地球環境に与える負荷の把握を考える一つの指標。

## イベント情報

今年はおうちで「おもしろ環境まつり2020オンライン」⇒3月末まで開催中 <https://omokan.net/>

### ビーチクリーン情報

ビーチクリーンを定期開催している各グループへの連絡は以下の二次元コードを読み取るか、電話をご利用ください。



#### Peaceful Earth (ピースフルアース)

活動エリア：(和歌山市) 加太/磯ノ浦



Instagram

#### WBC (ワイルドビーチクリーン)

活動エリア：(和歌山市) 友ヶ島



Facebook

#### スマイルプロジェクト

活動エリア：(和歌山市) 片男波



Facebook

#### アイデアル

活動エリア：(日高町) 産湯海岸



Instagram

#### 煙樹ヶ浜みんなでアートプロジェクト

活動エリア：(美浜町) 煙樹ヶ浜

電話：0738-20-5093

### Youtube情報番組

#### 「和くらす～持続可能な暮らしのヒント～」 公開中!

県内を中心に地域の「持続可能な暮らしのヒント」を動画で紹介しています。以下4タイトルを御覧いただけます。

- ・1本の苗からはじめる自給自足
- ・もったいないから愛を込めて
- ・豊かな食づくりは調味料から
- ・歩いて拾って豊かな海



チャンネル和くらすへのアクセスはこちら

### 「うみわかまもる」プロジェクト任命式

ビーチクリーン活動メンバーが大集結します!

日時：3月27日(土) 14:00~15:00

場所：本町公園

年間を通して活動したメンバーに任命証を授与します。

新規メンバーも募集中です。



うみわかまもるwebサイト  
<https://umiwaka.net/>

Youtubeで **うみわかまもる** で検索

あなたの活動をサポート **わかやま推進員サイト** **わかやま 推進員** **検索** イベント情報も随時更新

## 県センター通信

ビーチクリーンやマルシェ、小麦作りと、それぞれの地域で様々な活動が展開されています。県センターは、こうした活動を「わおん通信」をはじめとするメディアを活用し、どんどん発信していきます。皆さんの積極的な情報共有により、多くの人をつなげたいと考えています。和歌山県にある魅力を県内外の方々に発信し、人の輪を広げることが、地域への愛着を強めることにつながり、さらに今後の「気候変動対策」や「持続可能な社会づくり」を加速させると考えています。県センターでは、地域特派員として一緒に活動いただける方を募っています。また、活動レポートやイベント情報、地域の自慢といった「あなたの声」もどんどんお寄せください。情報をお待ちしています。